

**大学都市神戸産官学プラットフォーム  
2026年度 事業計画**

# 目次

① 背景・目的	.....	P3
② 構成組織	.....	P5
③ 産官学連携交流拠点	.....	P9
④ 外部評価	.....	P12
⑤ プロジェクト	.....	P14
1. KOBE アカデミックトーク プロジェクト	.....	P16
2. 学生の地元企業の理解促進、認知度向上、市内定着に向けた地域定着人材育成	.....	P18
3. 神戸医療 DX 人材育成プロジェクト	.....	P21
4. 企業、行政、大学、住民が共につくる地域防災	.....	P23
5. 大学都市 KOBE SDGs Challenge Project	.....	P25
6. 高校生のための進路探求プロジェクト	.....	P27
7. KOBE 学生 政策提案チャレンジプロジェクト	.....	P30
8. 神戸外国人高度専門人材育成プロジェクト	.....	P32
9. リカレント教育プロジェクト	.....	P35
10. 神戸の未来に向けた大学創生プロジェクト	.....	P37
⑥ 収支予算	.....	P38

## ①背景・目的

多彩な高等教育と研究を実践し、歴史と伝統ある大学が数多く立地し、約7万人の大学生が学ぶ神戸市は全国屈指の大学都市であり、豊富で個性豊かな教育資源に加え、大学を通じて多くの若者が集まっていることが地域活性化の原動力となっており、優位性でもある。

他方で、文部科学省の中央教育審議会大学分科会の推計では、18歳人口の減少により、2025年から2040年にかけて大学入学者数は約18万人（約3割）が消失（出典：文部科学省 中央教育審議会大学分科会（第181回）高等教育の在り方に関する特別部会（第15回）合同会議配付資料）するとされている。今後、少子化の急激な進行により、大学志願者の減少と他府県への進学者の流出加速が見込まれるなか、大学都市神戸として、産官学が一体となり、多様な地域課題解決につながる大学の機能を強化するとともに、市内外から市内大学へ進学する優秀な人材の確保、卒業時の地元定着率の向上、さらには人口減少が進む中でも新たな価値を生み出す高度人材の育成を図ることが重要である。

こうした状況に対応していくため、産官学共創による課題解決に向けた連携協力体制の強化に向けて、市内の大学等、産業界、神戸市が参画し、一般社団法人「大学都市神戸産官学プラットフォーム」を2023年11月10日に設立し、「神戸の将来を支える人材の獲得」「神戸の未来を牽引する人材育成・定着」「神戸経済への直接的な貢献」の3つの取組みの視点をもとに、産官学連携による共創強化を通じたさまざまなプロジェクトを展開することとした。本プラットフォームは文科省の提唱する「地域連携プラットフォーム」を神戸市域において具現化するものである。

### 【2026年度に向けて】

昨年2月の文部科学省中央教育審議会答申「我が国の『知の総和』向上の未来像」では、地域が大学とともに知を創出し、その成果を社会へ還元していく新たな高等教育の姿を示している。また、同答申を踏まえて国が策定を進めている「令和8年度 地域大学振興プラン（仮称）」では、地域の高等教育機関を核とした産学官金等の連携強化、大学間連携による地域アクセス確保、コーディネーター配置による協議体（地域構想推進プラットフォーム）の構築が重要施策として掲げられている。こうした国の方向性とも歩調を合わせつつ、「大学都市神戸産官学プラットフォーム」は設立3年目となる2026年度、神戸に集積する大学の知的資源と産官学のネットワークを結集し、地域の未来を支える共創基盤のさらなる充実を図る。

具体的には、①学生の地元定着の促進、②大学と産業界の連携による地元企業の競争力向上、③大学間連携の深化の三点を重点として取り組みを進めていく。まず、学生の地元定着に関しては、経済団体や地元企業と連携し、学生と地元企業が多様な形で交流し、相互理解を深める機会を創出するとともに、SNS等を活用した学生主体の企業魅力発信を支援する。また、市内高校と大学との連携を強化し、高校生が地域の大学や企業の魅力や学びに触れる機会を拡充するなど、高大接続を通じて若い世代の地域定着の意識醸成を図る。

次に、大学が有する研究シーズや教育資源を活かし、産業界との協働による課題解決や新たな価値創出につながる取組みを推進する。そのため、大学と企業双方のニーズをつなぐコーディネート機能を強化し、地元経済界との継続的な対話を通じて、産業界のニーズを踏まえた連携プロジェクトを展開し、地元企業の競争力向上を後押しする。

さらに、参画大学の教育資源を結集し、各大学の専門分野や特色ある教育・研究の強みを活かした共通教育プログラムの開発を進めるとともに、大学生と社会人がともに学ぶ機会を拡充し、大学間連携の一層の深化を図る。その際、大学間での調整やプログラム設計を円滑に進めるため、分野横断的な連携を促すコーディネート機能を強化し、教育資源の共有化や共同実施に向けた連携の基盤づくりを進めていく。

これらの取組みを支える拠点として、三宮センタープラザに設置した「KOBE Co CREATION CENTER」を、学生・企業・研究者が交わる交流拠点として積極的に活用し、対話・協働・発信を生み出すハブとしての機能強化を進める。拠点の活用を一層高めることで、市内の産官学が日常的に交わり、新たな学びと協働が生まれる環境を育み、神戸の将来を担う人材育成と地域経済への貢献を着実に進めることで、大学都市神戸の価値をさらに高めていく。

## ②構成組織

[会員 ※2026年3月18日時点]

### ●大学・高専等高等教育機関を設置する法人会員（13）

神戸大学	流通科学大学
神戸学院大学	神戸芸術工科大学
甲南大学	神戸国際大学
神戸市外国語大学	神戸常盤大学
神戸市立工業高等専門学校	神戸松蔭大学
兵庫県立大学	神戸市看護大学
関西国際大学	—

### ●特別会員（4）

和田興産(株)	(福)報恩会
(株)神戸製鋼所	(株)G-7ホールディングス

### ●企業会員（43）

NTT西日本(株)	(株)KDS	(株)Digeon
アスタッフ(株)	(株)御所坊	(株)ホンダモビリティ近畿
(株)神戸新聞事業社	(株)ホテルニューアワジ	早駒運輸(株)
(株)学生情報センター	(株)COSY	(株)オプティム
剣菱酒造(株)	(株)オゾネ	オーエス(株)
双日(株)	(福)みかり会	(株)ソネック
住友生命保険(相)	(福)慶明会	エム・シーシー食品(株)
(株)神戸デジタル・ラボ*	(福)まなの会	
(有)エグゼ	(福)すみれ会	—
(株)みなと銀行	(福)弘英会	—
兵庫ダイハツ販売(株)	(福)大慈厚生事業会	—
兵庫六甲農業協同組合	(医)倫生会	—
(株)喜創産業	大和リース(株)	—
(福)弘陵福祉会	積水ハウスGMパートナーズ(株)	—
(福)恩賜財団共生会支部兵庫県共生会	(株)ブラックス	—
(福)神港園	損害保険ジャパン(株)	—
(福)成晃会	KANDO(株)	—
(福)神戸婦人同情会	(株)NTTドコモ	—

●エントリー会員 (59)

(株)神戸新聞社	(株)日本ビジネスデータプロセッシングセンター	(株)ワールド・ワン
(株)三井住友銀行	(株)海昇	(株)One Bright KOBE
三井住友信託銀行(株)	(株)F・O・インターナショナル	(株)ノザワ
三菱 UFJ 銀行(株)	宮野医療器(株)	(株)ライズ・リバー
金井重要工業(株)	(株)コベルコ E&M	(株)ラジオ関西
神戸中央青果(株)	(株)コベルコ科研	(株)デンソーテン
(株)ナガサワ文具センター	シン・エナジー(株)	—
(株)W	(株)パソナグループ	—
(株)日本政策金融公庫	(同)アトエプロダクション	—
兵庫トヨタ自動車(株)	(株)青粒	—
神果神戸青果(株)	(株)レオパレス 21	—
(株)合食	(株)コネクテッド	—
中村住建	(株)ジャーニーゾーン	—
(株)シマブンコーポレーション	(株)サンテレビジョン	—
菊正宗酒造(株)	石光商事(株)	—
神戸海事検定(株)	東京海上日動火災保険(株)	—
(株)伍魚福	あいおいニッセイ同和インシュアランスサービス(株)	—
SMBC コンシューマーファイナンス(株)	(株)ワールド	—
NPO 法人神戸デザイン協会	ペタビット(株)	—
オリバーソース(株)	(株)ストークス	—
(公財)大吉財団	(株)奥谷金網製作所	—
BE KOBE ミライ PROJECT	Poai(株)	—
(株)ベベ	あいおいニッセイ同和損害保険(株)	—
(株)岡崎製作所	(株)城山ホールディングス	—
旭光電機(株)	丸尾カルシウム(株)	—
(株)バリュープランニング	ハチ食品(株)	—

●団体会員 (6)

(一社)兵庫県中小企業家同友会	(一社)神戸市老人福祉施設連盟	(一社)神戸市介護老人保健施設協会
(公社)兵庫工業会	神戸商工会議所	神戸市シルバーサービス事業者連絡会

●パートナー会員 (5)

(株)モリサワ	(医)純心会	(公財)甲南会
(医)康雄会	(医)神戸海星病院	—

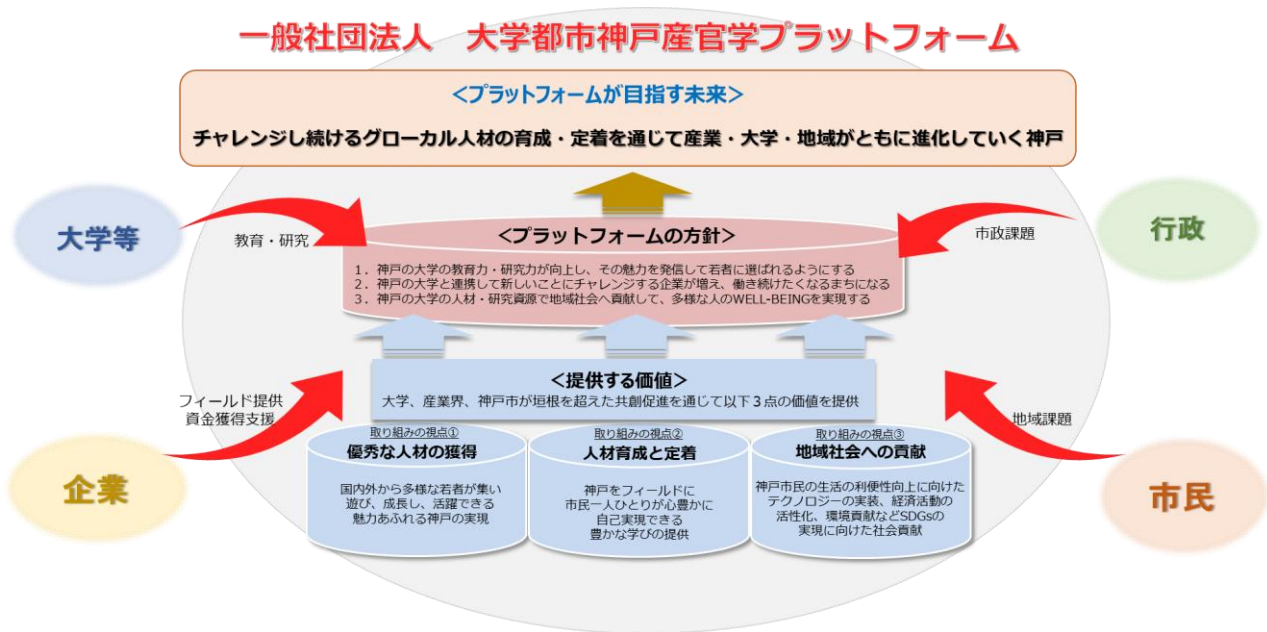
●行政会員 (1)

神戸市

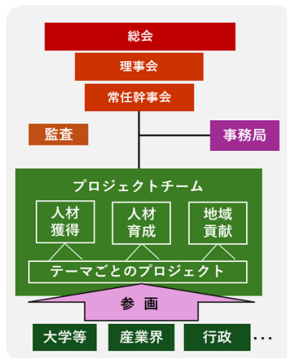
	分担金 (年額)	法人社員	プロジェクト	産官学連携交流拠点
企業会員	10万円 (1口)	×	<ul style="list-style-type: none"> <li>その意思に基づきプラットフォームの活動を推進するもので、その目的達成に向けて貢献できる企業</li> <li>プロジェクトへの参画が可能</li> <li>プロジェクトの企画提案が可能</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>交流・コワーキングスペースの利用料無料</li> <li>講義室、会議室、拠点一体利用の利用料割引 (20%)</li> </ul>
特別会員	10万円×5口 以上 若しくは職員派遣	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>その意思に基づきプラットフォームを構成し、その目的達成に向けて貢献する企業</li> <li>プロジェクトへの参画が可能</li> <li>プロジェクトの企画提案が可能</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>会議室、交流・コワーキングスペースの利用料無料</li> <li>講義室、拠点一体利用の無料利用枠 (年5回)</li> <li>講義室、拠点一体利用の利用料割引 (50%)</li> </ul>
エントリー会員	0円	×	<ul style="list-style-type: none"> <li>プラットフォームから定期的な情報提供 (将来的に企業会員・特別会員としての参画)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>特典なし</li> </ul>
団体会員	10万円 (1口)	○	<p>(経済団体や教育団体等が対象)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>団体 (「団体総意として申し出があった場合」の意) プロジェクトへの参画が可能</li> <li>プロジェクトの企画提案が可能</li> <li>団体の傘下個別企業</li> <li>常任幹事会の協議を経てプロジェクトへの参画が可能 (プロジェクトの企画提案は不可)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 団体 (「団体総意として申し出があった場合」の意) <ul style="list-style-type: none"> <li>交流・コワーキングスペースの利用料無料</li> <li>講義室、会議室、拠点一体利用の利用料割引 (20%)</li> </ul> </li> <li>② 団体の傘下個別企業 <ul style="list-style-type: none"> <li>交流・コワーキングスペースの利用料無料</li> <li>講義室、会議室、拠点一体利用の利用料割引 (5%)</li> </ul> </li> </ul>

パートナー会員：この法人の活動に協力及び支援する企業及びその他の団体

## 【全体像】



## 【組織図】



**総会** [社員（団体の長）が出席]

- ・事業計画の決定等

**理事会** [神戸財界出身の代表理事、市企画調整局長、大学の学長から構成]

- ・全体戦略や事業計画の方向性を協議、プロジェクトの認可等

**常任幹事会** [大学の副学長・事務局長、神戸市、経済団体から構成]

- ・事業計画やプロジェクトの進捗等に関する協議、産官学連携の検討等

**事務局** [大学・企業・市からの派遣職員及び契約職員により事務局を構成]


- ・法人の組織運営／産官学連携交流拠点の運営、参画団体間の各種調整、プロジェクトの管理や支援等

**プロジェクトチーム** [プロジェクト参加大学、企業、行政から構成]

- ・プロジェクトごとにマネジメント体制を構築し、プロジェクトの企画、運営、検証・検討

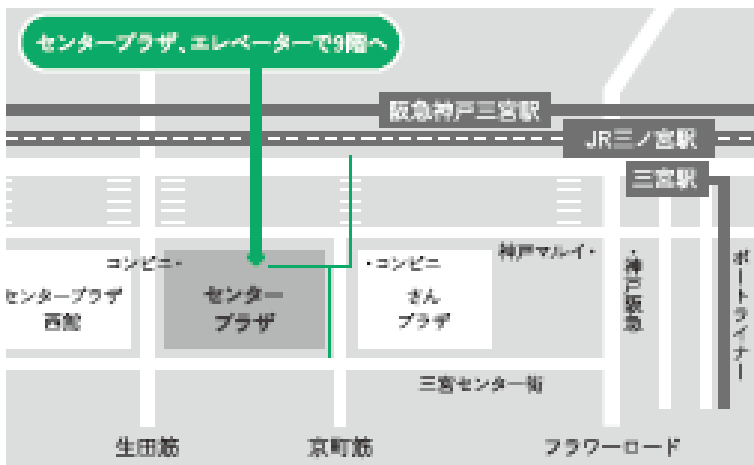
### ③産官学連携交流拠点

[概要]

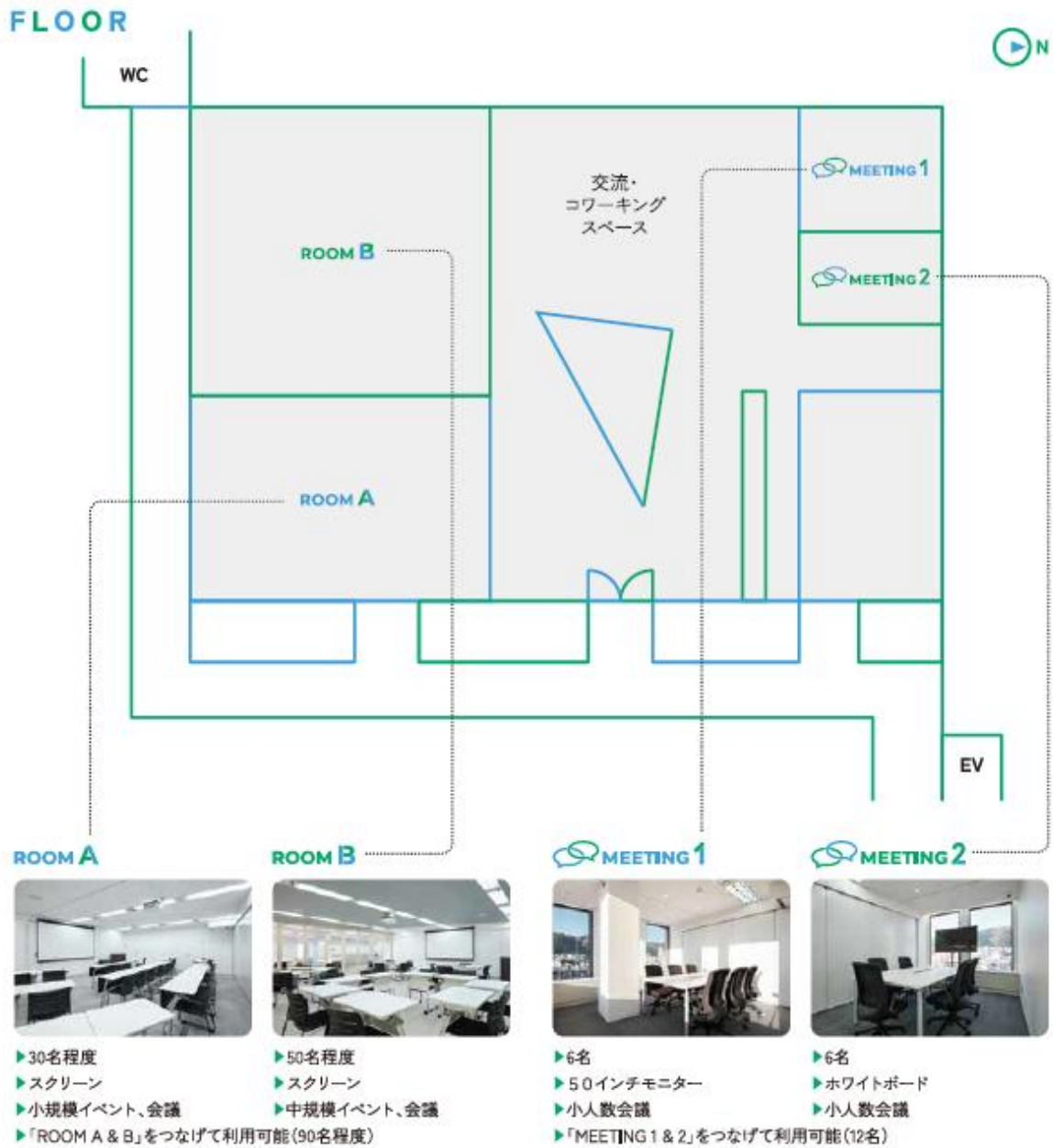
組織名称	KOBE Co CREATION CENTER	
所在地	兵庫県神戸市中央区三宮町1丁目9番1号 センタープラザ9階の一部	
床面積	437.4 m <sup>2</sup> (9階部分)	
施設概要	ROOM A・B、MEETING 1・2、交流・コワーキングスペース	
開館時間	平日 10:00~21:00 (月曜日を除く) 土日祝 10:00~18:00 ※月曜日が祝日・休日の場合は土日祝開館時間 (10:00~18:00)	
休館日	毎週月曜日 / 年未年始 (12月29日~1月3日)	
駐車場	なし	

[アクセス]

JR三ノ宮駅、阪急神戸三宮駅、地下鉄三宮駅、ポートライナー三宮駅から徒歩5分



[フロア図]



**交流・コワーキングスペース**



### 【拠点の適切かつ更なる利用促進】

2024年4月の本格運用開始から2期を経て、参画大学の教員を中心に関係者の間で認知が着実に進んだことにより、拠点の稼働率は継続的に上昇している。2026年2月末時点では、セミナー用のROOMスペースおよび会議・打ち合わせ用のMEETINGスペースにおいて、月平均稼働率62.6%（前年度2月末時点：58.3%）を達成している。利用形態も、参画大学教員によるPBL型ゼミの講義、大学（学部・学科）や研究室主催のシンポジウム、研究者と企業が連携して実施する産学連携セミナーなど多様化しており、参画大学の教育・研究活動を支える拠点としての機能を高めるとともに、都心三宮における共通サテライトとして、大学間の垣根を越えた活用が広がっている。

また、交流・コワーキングスペースの利用も増加傾向にあり、2025年4月～2026年2月（11か月）の利用者数は延べ5,830人（前年度同期間：延べ3,044人）と、前年度比で約2倍に拡大した。長期休暇や週末を問わず学生の利用が伸びており、個人学習やグループでの活動の場として活用が進むとともに、所属大学の垣根を越えた学生同士の交流も生まれつつある。あわせて、参画大学ごとの利用実績については継続的に各大学と情報共有を行うとともに、特定の団体や個人に利用が偏らないよう、受付段階での利用調整機能を強化し、より多くの参画団体が公平に利用できるよう運営の最適化にも取り組んでいる。

2026年度は、こうした利用の広がりや学生からのフィードバックを踏まえ、座席数の拡充や空間設計の見直しを進めることで、拠点としての集客力を一層高めていく。また、学生と企業の接点を創出する交流プログラムを定期的にも実施するとともに、企業による継続的な情報発信の充実を図ることにより、個々の参画大学等だけでは得難い幅広い出会いと交流の機会を日常的に提供できる環境を整備する。これにより、学生にとって新たな「出会いと気づき」を得られる場としての価値を高めるとともに、学生、大学教職員、企業等が交わる対話・協働・発信のハブとして、拠点機能のさらなる充実を図っていく。

### [2026年度目標]

- ・月平均稼働率（ROOM・MEETING） 70%（2025年4月～2026年2月実績 62.6%）
- ・交流・コワーキングスペース利用の年間利用者数（延べ数） 6,500名以上（2025年4月～2026年2月実績5,830名）

## ④外部評価

2025 年度は、経済界等の有識者による外部ヒアリングを試行的に実施し、地域社会への貢献や産業界や地元企業等の視点で、プラットフォームへの期待と評価について意見交換を行った。

2026 年度は、設立 3 期目を迎えるにあたり、プラットフォームの取組みがその目的に沿って適切に進められているか否かを第三者的視点から評価検証する外部評価を実施する。具体的には、経済団体、金融機関、学識経験者等の外部有識者により、各プロジェクトの KPI 設定の妥当性や達成度、取組みが地域社会のニーズに応えているかといった観点からの評価、今後の改善に向けた提言を得ることを目的とする。併せて、法人及び拠点運営も含めたプラットフォームの財務構造の分析も行い、持続可能な事業運営に向けた検討を進めるとともに、ステークホルダーに対する財務の透明性を高めていく。外部評価の結果は理事会および常任幹事会で共有し、4 期目以降のプラットフォームの方針協議、事業計画・予算の検討、取組みの選定・改善に活かしていく。

[参考：2025 年度外部ヒアリング]

### ●概要

2025 年 5 月の理事会において、プラットフォームが実施する各プロジェクトの成果や課題を、第三者的な視点から客観的に検証する外部評価の仕組みを整備する必要性が示された。

これを踏まえ、今年度は外部評価の実施に向けた準備段階として、まず団体会員からの推薦等に基づき、大学の産官学連携や神戸地域における人材育成に知見を有する有識者数名を選定し、個別ヒアリングおよび委員会形式での合議を実施した。ヒアリングでは、プロジェクト事業の進捗や成果、運営体制、産官学連携のあり方や地域貢献の方向性などについて幅広く意見を収集し、今後の外部評価の枠組みづくりに向けた示唆を得た。

### ●委員

地域産業界等の有識者（5 名）

### ●スケジュール

2025 年 12 月～2026 年 1 月	委員への個別ヒアリング
2026 年 1 月 23 日（金）	ヒアリング委員会（オンライン）

### ●主な意見

1. 地域社会への貢献とその効果 —プラットフォームや拠点が、より地域ニーズに即し、地域貢献につながる新たな取組みに発展していくためには、どのような改善が必要か—

- ・地域社会とのつながりを深めていくためには、学生の主体的な参加を取り入れたプロジェクトや、地域社会も巻き込んだ社会課題解決型のプロジェクトが必要。
- ・学生の自習スペースから、学生と企業、地域社会が日常的に交わる「共創の場」へと拠点を進化させる必要。
- ・参画する複数大学等で、学生が「神戸の歴史や文化を学ぶ共通教養プログラム」の導入など神戸の地

域社会への関心と愛着を高めていく取り組みも必要 等

2. 産業界・企業から見た期待と評価 —プラットフォームに対して、どのような役割や成果が期待されるか。企業のニーズと大学のシーズのマッチングは十分に機能しているか。改善すべき点は何か—

- ・単なるマッチングだけでなく、企業と学生との「協働」や「対話の場」の要素を入れた取り組みへの期待が高まっている。また、中小企業のニーズとしては、学生に的確に届く情報発信の工夫、大学キャリアセンターとの連携強化が重要な課題。
- ・外部との連携による企画力の強化など、引き続き企業にとっても価値あるプラットフォームとしての機能向上を図っていく必要。
- ・財務の透明性を確保し、関係者との信頼関係を深めながら、持続可能な産官学連携の基盤を構築すべき。 等

## ⑤プロジェクト

本プラットフォームは、「チャレンジし続けるグローバル人材の育成・定着を通じて産業・大学・地域がともに進化していく神戸」の実現を目標に掲げ、「優秀な人材の獲得」「人材育成と定着」「地域社会への貢献」の3方針に資する産官学連携プロジェクトに取り組んでいる。2024年度は、参画団体から提案された16プロジェクトを展開したが、プロジェクト数の増加に伴い、リソースが分散し、重点化が課題となった。このため、プラットフォームの方針に照らし、取組みの方向性を整理することを目的に中間評価を実施し、翌年度（2025年度）の重点化に向けた整理を行った。

2025年度は、2024年度の中間評価で継続候補となったプロジェクトに加え、参画団体からの新規提案を含めて理事会で承認された11プロジェクトを展開した。年度途中には、各プロジェクトの進捗状況を評価・確認し、改善に向けた助言を行う中間評価を実施するとともに、プラットフォームの取組みを第三者の視点から検証するため、有識者による外部ヒアリングも行った。これにより、産官学連携の方向性やプロジェクトの質向上に向け、一定の示唆を得ることができた。

2026年度は、参画大学や経済団体等による審査を経て一定の評価を得た事業について採択調整と整理を行い、プラットフォームの方針に沿った重点領域への取組みをさらに推進し、産官学が連携して地域の未来を支える取組みをより効果的に進めていく。

[2026年度に実施予定のプロジェクト]

No.	プロジェクト名	優秀な 人材の獲得	人材育成と 定着	地域社会へ の貢献
1	KOBE アカデミックトーク プロジェクト			○
2	学生の地元企業の理解促進、認知度向上、市内定着に向けた地域定着人材育成		○	
3	神戸医療 DX 人材育成プロジェクト		○	
4	企業、行政、大学、住民が共につくる地域防災			○
5	KOBE SDGs CHALLENGE PROJECT			○
6	高校生のための進路探求プロジェクト	○		
7	KOBE 学生 政策提案チャレンジプロジェクト		○	

さらに、「優秀な人材の獲得」「人材育成と定着」「地域社会への貢献」の3方針、神戸市の抱える市政課題や企業等のニーズを踏まえ、国費や寄附金等の特定財源を活用し、参画大学のリソースを活用した産官学連携によるリカレント教育プロジェクトなど3つのプロジェクトの取り組みも展開していく。

[2026年度に特定財源により実施が見込まれるプロジェクト] ※特定財源の獲得ができた場合に実施

No.	プロジェクト名	優秀な 人材の獲得	人材育成と 定着	地域社会へ の貢献
8	神戸外国人高度専門人材育成プロジェクト	○	○	
9	リカレント教育プロジェクト		○	
10	神戸の未来に向けた大学創生プロジェクト		○	

1. KOBE アカデミックトーク プロジェクト	
概要	<p>参画大学の研究者が、自身の研究の意義や成果を地域社会へわかりやすく発信し、対話を通じて相互理解を深めることを目的とした「KOBE アカデミックトーク」を 2026 年度も継続して実施する。本プロジェクトは、研究者と市民・企業・行政など多様な地域ステークホルダーが直接つながる「開かれた知の交流の場」として位置づけ、大学の知を地域社会に開くとともに、産官学連携や地域課題解決の入口となる役割を担ってきた。2026 年度は、2025 年度の成果と課題を踏まえ、より幅広い層の関心やニーズに応えるための改善を図る。具体的には、登壇する研究者の専門分野の多様化を進めるとともに、テーマ設定においても地元企業の関心分野や社会的関心の高い課題などを意識した企画とすることで、研究内容と地域社会との接点をより明確にしていく。</p> <p>また、開催形式についても、会場開催に加えオンデマンド配信やハイブリッド開催など柔軟な方法を組み合わせ、学生、企業関係者、市民など多様な層が参加しやすい環境を整える。</p> <p>さらに、情報発信の工夫として、SNS やショート動画、研究紹介コンテンツ等を活用し、研究内容をより直感的に理解できる形で発信することで、これまで参加機会の少なかった層へのリーチ拡大を図る。あわせて、研究者と地域社会をつなぐ「連携の入口」としての機能を意識し、対話を通じて地元企業等との共同研究や地域課題解決につながる関係づくりを促進する。これらの取組みにより、大学の知を地域社会に開き、研究者・企業・行政・市民がともに価値を創り出す持続的な連携基盤の形成を目指す。</p>
2026 年度 実施内容	<p>1. イベント開催 (10 回程度)</p> <p><u>(継続) 通常回 (5 回程度)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学際的テーマ、社会課題、地域課題など幅広いテーマを設定し、登壇する研究者 2~3 名による対話型セッションを実施</li> <li>・開催形式は対面・ハイブリッド・オンラインを柔軟に選択、KOBE Co CREATION CENTER だけでなく、協力大学、協力企業施設等も会場として活用検討</li> </ul> <p><u>(新規) オンデマンド回 (2 回程度) ※条件付実施</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究者によるショート講義を収録し、期間限定で公開することで、対面参加が難しい層へのアプローチを強化</li> <li>・視聴後のアンケートを通じて関心分野を把握し、次年度の企画に反映</li> </ul> <p><u>(新規) 高校生・教員向け特別回 (夏季休暇期間)</u></p> <p>対象：高校生、保護者、中高教員</p> <p>内容：①研究の面白さを伝える入門的テーマを設定し、研究と進路・キャリアを結びつけるミニセッションを実施。</p>

	<p>② (条件付) 教員向けに、例えば「学校教育と大学研究の接続」をテーマとした回を設け、高大連携の促進を図る。</p> <p>2. 外部団体とのテーマ連携企画 (2 回程度)  (新規) 市内を中心とする業界団体等と連携し、当該団体のニーズが高いテーマを設定し、登壇研究者を調整、実施する。(テーマ例：ヘルスケア×神戸、海洋・港湾技術、観光・文化・創造など)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・イベント後にはマッチングの機会を設け、共同研究や実証事業につながる関係構築を目指す。</li> </ul> <p>3. 研究者ネットワーク形成・連携支援  (継続/新規)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・登壇研究者を中心とした交流会を年 2 回開催し、企業・行政担当者も招いたテーマ別ミニマッチングを実施する。</li> <li>・登壇者の研究分野・関心領域をデータベース化し、問い合わせに応じて紹介することで、研究者と地域の連携を促進する。</li> </ul> <p>4. 広報・発信およびコンテンツ活用  (新規)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究者紹介の短尺動画を制作し、ウェブサイトや SNS 等で発信する。</li> <li>・イベント告知と併せて「研究者と地域をつなぐ入口」としての認知向上を図り、参加層の拡大につなげる。</li> </ul> <p>5. 成果把握と改善サイクルの構築  (継続/新規)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回の参加者アンケートを実施し、研究者・参加者の交流状況や企業・行政とのマッチング件数等を把握する。</li> <li>・年度末に「成果報告書」を作成し、次年度の企画改善に反映することで、継続的な質向上のサイクルを確立する。</li> </ul>
2026 年度 KPI	アウトプット
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イベント開催 (通常回・オンデマンド回・特別回) 年間 10 回以上</li> <li>・登壇研究者のショート紹介動画公開数年間 10 本以上、再生数累計 3,000 回以上</li> <li>・プロジェクトを通じた研究者と企業・行政との関係構築数年間 10 件以上</li> </ul>
	アウトカム
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学研究への関心層の裾野拡大及び、研究者と地域主体 (企業・市民・行政) との継続的な対話関係の形成。</li> <li>・研究への関心喚起と連携等の具体的行動の促進。</li> <li>・産官学連携の成果 (共同研究・実証) の立ち上げにつながる、企業・行政との接点創出の基盤を構築。</li> </ul>
プロジェクトチーム	神戸大学 (リーダー)、神戸学院大学、甲南大学、関西国際大学

2. 学生の地元企業の理解促進、認知度向上、市内定着に向けた地域定着人材育成	
概要	<p>神戸市では2010年をピークに人口減少が続き、とりわけ生産年齢人口の減少が顕著である。また、2024年度の調査では、市内大学に在籍する学生の市内企業への就職率は20%を下回り、多くの学生が卒業と同時に市外へ流出している。採用環境が「売り手市場」となる中で、市内中小企業では採用難・人手不足が深刻化しており、若年層の地域定着は喫緊の課題となっている。こうした状況を踏まえ、本プロジェクトでは過去2年間、専任コーディネーターを配置し、参画大学・企業等のネットワークを活用して、市内企業へのインターンシップ・就業体験プログラムを展開してきた。参加企業・学生からは手厚いサポートが高く評価された一方、学生の応募数が伸び悩むなど、地元企業への認知度や関心の低さが課題として浮き彫りになった。</p> <p>2026年度は、これまでの成果を基盤に、KOBЕ Co CREATION CENTERをはじめとする拠点の活用や大学のキャリア教育との連携を強化し、「1. 地元企業の理解促進（知る）→2. 関心・共感の醸成（関心を持つ）→3. 魅力発信と就職促進（惹かれて選ぶ）」の3段階で学生の地域定着を促す体系的な取り組みを推進する。まず、学生の利用頻度が高いKOBЕ Co CREATION CENTERをハブとして、地元企業が学生と気軽に対話できるワークショップや企業ブースの設置など、日常的な接点づくりを進める。次に、複数企業訪問型就業体験や、企業の課題解決に学生が取り組むジョブ型就業体験を重点的に実施し、学生が企業の実像を理解し、関心を持つ機会を創出する。さらに、就業体験参加学生へのインタビューやレポート作成等を通じて、学生視点での企業の魅力を可視化し、採用広報にも活用できる形で発信することで、企業の採用力強化にもつなげていく。</p> <p>また、外国人留学生の地域定着に向けては、参画大学・企業・団体が連携し、留学生向けの中小企業就職支援や中長期就業体験プログラムを充実させることで、「兵庫・神戸では就業経験を得られ、就職もできる」という認知向上を図り、優秀な外国人材の獲得にもつなげる。これらの取り組みにより、学生が地元企業を「知り」、企業の価値に「共感し」、最終的に「惹かれて選ぶ」プロセスを体系的に支援し、神戸における若年人材の定着と地域社会の持続的発展に寄与することを目指す。</p>
2026年度 実施内容	<p>【市内企業へのインターンシップ・就業体験プログラム等】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地元企業の理解促進（知る） <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生の利用頻度が高いKOBЕ Co CREATION CENTERも活用し、大学や経済団体、企業からの提案やニーズを踏まえた学生と企業との交流イベント等を実施。</li> <li>・学生が日常的に集う拠点をハブとして、企業と学生の接点を創出。</li> </ul> </li> <li>2. 関心・共感の醸成（関心を持つ）</li> </ol>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学のキャリア教育やゼミの社会課題解決型 PBL 型講義と地元企業との連携推進を通じ、学生の学びを利用して、地元企業への関心を高める。</li> <li>・インターンシップ・就業体験プログラムとして、地元企業の認知度向上および学生の接点づくりを目的とした「複数企業訪問型就業体験」と、就業体験を通じて企業が抱える課題解決に学生が取り組む「ジョブ型就業体験」に重点をおいて実施。</li> </ul> <p>3. 魅力発信と就職促進（惹かれて選ぶ）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・就業体験プログラムに参加した学生と企業と一緒にあって、学生目線での企業の魅力発信レポート作成や、「自社の魅力」や「働きがい」を言語化するワークショップを行い、その成果を企業が活用することで、地元企業の採用力強化につなげる。</li> </ul> <p><b>【留学生の地元定着に向けた就業体験】</b></p> <p>1. 参画企業募集</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外国人材の受入実績がある企業や、留学生ニーズの高い業界（ホテル・観光等）を中心に参画を促進。</li> <li>・過去事例パンフレット等を活用し、企業の受入イメージ醸成と不安軽減を図る。</li> </ul> <p>2. 受入企業と留学生とのマッチング会の開催（1回）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業やアルバイト等で参加しやすい形式・時間帯で実施し、就業体験への接続を強化</li> </ul> <p>3. ビジネス日本語やマナー講座（インターン内定者向け、G-Navi 事業との連携）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・就業体験前に必要なビジネス日本語・職場マナーを習得し、企業側の受入負担軽減と留学生の適応を支援</li> </ul> <p>4. 中長期就業体験プログラムの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・企業と事前に業務内容のすり合わせを行い、留学生の希望と企業の業務内容のミスマッチを防ぐ。</li> <li>・実務を通じて企業理解を深め、神戸で働くイメージを具体化する。</li> </ul> <p>5. 神戸市内企業見学ツアー（複数回）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・業界別にテーマを設定し、企業説明・職場見学・若手社員との座談会を組み合わせ、留学生が働く姿をイメージできる構成とする。</li> <li>・ツアー後は希望企業とのオンライン面談等の「第二段階マッチング」を実施し、中長期就業体験へ接続する。</li> </ul> <p>6. 企業に対する留学生受入環境の構築支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・企業向け外国人受入セミナー、過去事例パンフレットの作成等を通じ、受入体制の強化を支援する。</li> </ul> <p>7. （新規）外国人雇用セミナー＆留学生・企業交流会の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・企業向けに外国人雇用に関するセミナーを実施し、受入への理解促進と採用</li> </ul>
--	--

	意欲の向上を図る。同時に、留学生同士の交流会および企業との懇談会（ブ ース形式）を開催し、早期のキャリア形成と企業理解を促進
2026 年度 KPI	アウトプット
	<b>【市内企業へのインターンシップ・就業体験プログラム等】</b> 1～3の取組みの合計 ・実施プログラム数：15件以上 ・参加企業数：50社以上 ・参加学生数：500名以上 <b>【留学生の地元定着に向けた就業体験】</b> ・中長期就業体験プログラム応募学生数20名以上 ・中長期就業体験プログラム参加学生数10名以上 ・市内企業見学ツアー参加学生数及び留学生・企業交流会学生参加者数： 100名以上、参加企業数10社以上
	アウトカム
	<b>【市内企業へのインターンシップ・就業体験プログラム等】</b> ・市内企業の採用力の強化、市内就職率の向上 ・学生のキャリア観の醸成、社会人基礎力の向上 ・企業満足度の向上、企業会員の増加 <b>【留学生の地元定着に向けた就業体験】</b> ・参加学生の神戸・兵庫での就業意欲の向上率80%以上（アンケート） ・参画企業の留学生採用・受入に対する積極的意識変容率80%以上（アンケート）
プロジェクトチーム	神戸市（リーダー）、神戸大学、神戸学院大学、甲南大学、神戸市外国語大学、 神戸国際大学、神戸常盤大学、関西国際大学、流通科学大学、損害保険ジャパ ン株式会社、株式会社ホテルニューアワジ

3. 神戸医療 DX 人材育成プロジェクト	
概要	<p>少子高齢化の進行により、地域社会における医療需要は今後さらに増加することが見込まれる。一方、全国的には医療現場を支える若年層の人材が減少傾向にあり、地域医療の機能を維持するためには、大学における高度医療人材の安定的な育成・輩出がこれまで以上に重要となっている。</p> <p>神戸市内には医療系学部・学科を有する大学が多数立地しており、各大学では医療現場の高度化に対応できる人材、特に医療 DX を担う人材の育成が喫緊の課題である。医療・介護分野においてデータ利活用や ICT 導入が急速に進む中、学生が在学中からデジタル技術を用いたデータ分析や課題解決手法を学ぶことは、地域医療の持続性向上に不可欠である。</p> <p>神戸大学は全国的にも先進的な数理データサイエンス教育を展開しており、本分野で高い優位性を有する。この強みと市内大学の集積を活かし、医療を学ぶ「神戸の付加価値」を高めるため、医療系学部を有する大学がプラットフォームを通じて連携し、神戸大学の数理データサイエンス教育と接続した取り組みを進め、神戸の医療系人材の高度化を図る。</p> <p>本事業では、複数大学の医療系学生を対象に、ICT を活用したデータ分析を学ぶ短期集中型の「(仮称) 神戸医療 DX 人材育成プログラム」を実施する。これにより、医療・介護現場においてデジタル技術を活かした課題解決をリードできる“アドバンスト・エッセンシャルワーカー”の育成を目指し、地域医療の質向上と持続性確保に資する人材基盤の強化を図る。</p>
2026 年度 実施内容	<p>1. 短期集中プログラムの試行</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・神戸常盤大学の専門教育と神戸大学の数理・データサイエンス教育を融合した短期集中型プログラムを試行的に実施する。</li> <li>・2026 年度下半期（約 1～2 か月間）に、参画大学の医療系学生を対象に全 4 回程度のプログラムを開発・実施する。</li> <li>・プログラムでは、神戸大学数理・データサイエンスセンターが開発したオンデマンド教材を活用するほか、医療・介護事業者の協力のもと、実際の業務データを用いた実践的なデータ分析・課題解決学習の導入も検討する。</li> </ul> <p>これにより、医療現場の課題をデータに基づき分析し、ICT によるサービス改善の視点を養う実践的学習機会を提供する。</p> <p>2. 受講管理等の仕組みおよび体制基盤の初期構築</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プログラム試行と並行し、2027 年度以降の本格展開を見据えて運営体制や制度設計を検討する。</li> <li>・複数大学の学生を対象とするため、受講管理や学修成果の可視化を行う仕組み（例：専用スマートフォンアプリによる出欠・評価・認定の一元管理等）の構築について検討する。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・また、受講修了者にデジタルオープンバッジを発行するなど、学修成果を対外的に示す仕組みを整備し、学生の学習意欲とプログラムの魅力向上を図る。</li> </ul>
2026 年度 KPI	アウトプット
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義回数：4 回（1 コース 4 講義）</li> <li>・受講学生の DX スキル向上率：受講学生の 80%が向上を実感 ※事前・事後の自己評価アンケートにより測定</li> </ul>
	アウトカム
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学間連携の深化（参加大学・学科数）</li> <li>・大学間連携教育プログラムの他分野への横展開</li> </ul>
プロジェクトチーム	神戸常盤大学（リーダー）、神戸市看護大学、神戸大学

4. 企業、行政、大学、住民が共につくる地域防災	
<p>概要</p>	<p>阪神・淡路大震災から 31 年が経過し、超高齢社会の進行、人口減少、地域コミュニティの希薄化、ICT 化の加速など、社会構造は大きく変化している。さらに、南海トラフ巨大地震をはじめとする大規模災害が想定される中、地域の安全・安心を維持するためには、従来の枠組みを超えた広域的・多層的な防災・減災体制の構築が求められている。本プロジェクトは、阪神・淡路大震災の経験に加え、東日本大震災や能登半島地震など近年の災害対応から得られた知見を共有し、大学の専門知、企業の実践知、行政の制度知、地域住民の生活知を結集する「産官学民連携モデル」の構築を目的とする。特に、神戸市内の複数大学が参画するプラットフォーム組織として、単独の大学や企業では実現し得ない「共助のネットワーク」を形成し、地域防災力の向上に寄与する。2025 年度の参加者からは、「セミナー中心の取組みに留まらず、社会実装につながる具体的な方策の提示」「大学間での防災教育プログラムの連携・共有化」「学生が“守られる側”にとどまらず、地域の若い力として主体的に関わる機会の創出」などの視点が示された。</p> <p>これらの示唆を踏まえ、2026 年度は、これまでの大学・企業・行政・地域住民との協働に加え、市内の高等学校との協力・協働を新たに呼びかける。高校生・教員とともに、防災・減災に関する探究学習、イベント運営、防災まちづくり活動を実施し、高校生、大学生、企業、行政、地域住民 が相互に学び合う多世代・多主体の協働モデルを形成する。これにより、若い世代の防災意識の醸成、大学・企業・地域との新たな協働の創出、地域社会全体の防災力向上につなげ、次の 30 年を見据えた持続可能な地域防災モデルの構築を目指す。</p>
<p>2026 年度 実施内容</p>	<p><b>【継続】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 大学、行政、住民、企業の連携に関する地域防災セミナー・ワークショップ（各組織が連携した防災の先進的な取組みを学ぶセミナー）</li> <li>2. 企業・大学防災セミナー・ワークショップ：企業・大学の防災等の取組みをテーマに開催し、企業や地域の BCP（事業継続計画）や、災害時の復旧に向けた後方支援のあり方について学ぶ。</li> <li>3. 企業・大学・地域の防災訓練へ参加・ワークショップ（ALL HAT（HAT 神戸）や企業、大学、地域の防災訓練参加、人と防災未来センター等への出展）</li> <li>4. 大学生による企業防災訪問シリーズ：「防災」の取組みや事業をテーマに企業を訪問</li> </ol> <p><b>【新規】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>5. 大学生・高校生と連携した災害対応学習・訓練および交流ネットワークの形成：南海トラフ巨大地震などの大規模災害が想定される中、若い世代が</li> </ol>

	<p>主体的に災害対応を学び、地域と協働する機会を創出することは極めて重要である。そこで、大学生・高校生・教員がともに参加する「災害クロスロード」等の対話型ワークや、計画づくりなど災害対応を体験的、実践的に学ぶ訓練プログラムを実施し、多世代・多主体が交流しながら学び合うネットワークを形成する。これにより、学生が“守られる側”にとどまらず、地域の若い力として主体的に防災に貢献する役割を担うことを促し、地域社会全体の防災力向上につなげる。</p> <p>6. 産官学プラットフォームで蓄積した知見の記録化・共有化（映像アーカイブ化）：これまで産官学プラットフォームが構築してきた防災・減災の取り組みや協働のプロセスを体系的に記録し、映像等のアーカイブとして整理する。さらに、大学間で共有可能なオンライン教材として、防災・減災教育プログラムのモデル映像を制作し、参画大学の教育・研究活動に活用できる形を検討する。これにより、大学間の防災教育の連携・共有化を進めるとともに、参加者からの指摘にもあった「社会実装につながる具体的な方策の提示」「教育プログラムの体系化」に応える基盤を整備する。</p>
<p>2026 年度 KPI</p>	<p>アウトプット</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「地域防災セミナー」「企業・大学セミナー」、ワークショップ等開催回数 6 回以上</li> <li>・防災訓練・アウトリーチ 2 回以上</li> <li>・セミナー、ワークショップ、防災訓練、アウトリーチ年間参加者数 延べ数 300 名以上</li> <li>・取組みへの新規参加数 企業 2 件以上、大学 1 件以上、高等学校 2 件以上、地域団体・住民団体 1 件以上、学生 50 名以上、高校生 10 名以上</li> </ul> <p>アウトカム</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・神戸市に立地する大学が協働で事業を企画、実施することで紐帯と信頼を高め、緊急時に対応できるプラットフォームモデルを構築</li> <li>・大学と企業が防災・減災を柱に連携を深めて、災害などの緊急時に役立つ強みと弱みを相互に補うための仕組みづくり 避難訓練等ワークショップ実施</li> <li>・地域防災力向上のための新・神戸市モデル方式を企業・大学・行政・住民と構築</li> </ul>
<p>プロジェクトチーム</p>	<p>神戸大学（リーダー）、甲南大学、兵庫県立大学、神戸学院大学、神戸松蔭大学、神戸市看護大学、神戸常盤大学、関西国際大学、大和リース株式会社、双日株式会社</p>

5. KOBE SDGs CHALLENGE PROJECT	
概要	<p>神戸市は「SDGs 貢献都市神戸」を掲げ、SDGs 達成に向けた取組みを推進しており、市内の各大学においても、SDGs に関する取組みをそれぞれ推進している中で、プラットフォームを活用し、情報を集約し、一元的な発信や推進支援、並びに SDGs に取り組む主体同士の共創による豊かで魅力ある神戸づくりに貢献する。</p> <p>具体的には、プラットフォームを通じ、社会実装に向けた参画大学等の取組みへのクラウドファンディング支援や企業とのマッチング等の支援体制を構築することで、SDGs 達成に向けた参画団体や市民の更なる取組みを促し、SDGs 貢献都市神戸の実現への貢献を目指す。</p>
2026 年度 実施内容	<p>1. 「SDGs プロジェクト特設ページの充実」および「SDGs チャレンジ支援クラウドファンディング」の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ PF 参画団体が取り組んでいる SDGs の取組みを集約し、一元的に発信するプロジェクト特設ページにつき、より多くの参画団体の利用を促進するなど充実化を図っていく。</li> <li>・ PF 参画大学等の学生や教職員が取り組む SDGs の取組みを対象に、クラウドファンディングを活用した支援及び情報発信を継続して実施。</li> </ul> <p>2. 神戸 PF 発産官学連携による特色ある「KOBE SDGs フィールドラーニング」の展開</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 過年度に開催したイベント「大学都市 KOBE SDGs マルシェ」により、生まれたつながりや連携の機運を活かして、PF 参画大学の学生と参画企業等が連携する SDGs をテーマにした産官学連携企画を立ち上げ、PF 参画学生に対する特色ある学びの機会の充実を図るとともに、「1」の充実や「第 3 回大学都市 KOBE SDGs マルシェ」の開催充実につなげる。</li> </ul> <p>3. 「第 3 回大学都市 KOBE SDGs マルシェ」に向けた充実化検討</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2026 年度は、標記イベントのコンテンツ充実期とし、2027 年度に改めて開催を予定するイベントのさらなる充実化を検討しつつ、実証も含めた開催準備を行う。</li> </ul>
2026 年度 KPI	アウトプット
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ポータルサイト追加掲載数 10 件</li> <li>・ クラウドファンディング実施数 2 件</li> <li>・ 新規産官学連携プロジェクト数 4 件</li> </ul>
2026 年度 KPI	アウトカム
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 参画団体における新たな産官学連携の実現と共創プロジェクトの創出。</li> <li>・ 会員企業価値の発信、参画大学等の学生満足度、志願者の志願度向上、市内学生及び市民へのプラットフォームの認知拡大。</li> </ul>
プロジェクトチーム	甲南大学（リーダー）、神戸学院大学、神戸大学、神戸国際大学、神戸松蔭大



6. 高校生のための進路探求プロジェクト	
概要	<p>現在、多くの大学が高校生向けに情報発信を行っているものの、その多くは「自大学の特色や魅力（施設、入試、ブランド等）」のPRに偏りがちであり、高校生が本来必要とする「学問分野の本質的な学びの内容」や「その学びが実社会の職業とどのように結びつくのか」という視点での情報提供は十分とはいえない。この結果、高校生は“学部名のイメージ”や“大学名の印象”に依存した進路選択を行わざるを得ず、入学後のミスマッチや将来のキャリアイメージの欠如といった課題が生じている。本プロジェクトでは、市内の大学が企業とも連携し、高校と協働して「学問と職業のつながり」の可視化に取り組むことで、高校生が進路を主体的に判断するための客観的かつ具体的な材料を提供することを目的とする。また、大学進学後のキャリア形成を神戸でイメージできるようにすることで、高大接続を通じた地元定着の促進も重要な狙いとして位置づけている。</p> <p>2025年度は、プロジェクト初年度として、市内高校の生徒・教員へのアンケート調査やヒアリングを実施するとともに、トライアルとして2026年3月に「KOBE キャリア発見フェス 2026」を開催し、学問分野と職業の関係を整理した大学学部紹介パンフレットの作成・配布を行った。これらの成果は、高校生が求める情報の傾向や、大学・企業・高校が連携して提供すべき内容の方向性を把握するうえで重要な基礎資料となった。2026年度は、初年度の調査結果およびプロトタイプ施策の検証結果を踏まえ、内容の最適化（ブラッシュアップ）を行ったうえで、本格的なプログラムの実施を予定している。これにより、高校生が進路選択においてより深い理解と納得感を得られるだけでなく、大学進学後のキャリア形成を神戸でイメージしやすくすることで、地域に根ざした人材育成と地元定着の促進につなげていく。</p>
2026年度 実施内容	<p>1. 企画検討</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・PJメンバー（大学・企業・学生）に加え、市内高校の協力を得て、高校教員にも企画検討会議へ参画いただく。2025年度に実施した高校生・教員アンケート、ヒアリング、プロトタイプ施策（キャリア発見フェス、分野別ガイド等）の検証結果を踏まえ、高校現場のニーズと大学・企業側の知見を統合しながら、2026年度の施策内容を具体化する。</li> <li>・特に、学部・学科で学ぶ内容と卒業後の業種・職種のつながりを高校生に分かりやすく示す構成を強化し、進路選択の判断材料として活用できるようブラッシュアップを行う。</li> </ul> <p>2. 施策実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市内高校と対話を重ねながら、効果的な進路探求施策を企画・実施する。高校のカリキュラム（総合的な探究の時間等）との連携も視野に入れ、学校現場で活用しやすい形で提供する。</li> </ul>

	<p>(実施例)</p> <p>①進路探求施策「KOBE キャリア発見フェス（仮称）」の開催  神戸市内の高校生（主に1年生）を対象に、大学生・若手社会人と対話しながら学問分野の理解を深め、将来のキャリアを具体的にイメージできるプログラムを実施する。企業との協働により、“学問 → 身につく力 → 業界・職種”の流れを理解できるコンテンツを提供する。</p> <p>②探究学習の支援・教材作成  企業と連携し、高校の探究学習に活用できる教材やワークシートを作成する。高校生が自らの興味関心を深め、進路選択に必要な情報を主体的に収集できるよう支援する。</p> <p>3. 施策の効果検証  ・参加した高校生・教員・企業へのアンケートやヒアリングを実施し、施策の効果を多面的に検証する。学問理解の深まり、進路選択の主体性、キャリア意識の変化などを指標として分析し、次年度以降の改善点を抽出する。</p> <p>4. 次年度以降の施策検討  ・効果検証の結果を踏まえ、2027年度以降の施策の方向性を検討する。高校・大学・企業の三者が継続的に連携できる仕組みづくりや、より多くの高校が参加できる運営体制の構築を視野に入れ、持続可能なプログラムモデルの確立を目指す。</p>
<p>2026年度 KPI</p>	<p>アウトプット</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路探求施策実施 1件以上</li> <li>・施策参加者 1,000名以上</li> <li>・アンケート回答数 800件以上</li> <li>・施策協力企業・団体数 5社以上</li> </ul>
	<p>アウトカム・</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施策参加者の意識・行動の変化 80%以上</li> </ul> <p>※施策実施後のアンケートにおいて、以下の項目に対する肯定的な回答（「非常にそう思う」「そう思う」）が80%以上となることを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●意識面  学問と仕事の繋がりに対する理解、進路選択における主体性の向上。  (設問例)  ①学部を選ぶ際に、『就職先や社会での役割』を意識するようになった。  ②偏差値や大学名だけでなく、『何を学ぶか』を重視して進路を選びたいと思うようになった。</li> <li>●行動準備性（行動に向けた具体的ステップへの着手意欲）</li> </ul>

	<p>イベント参加を通じて、進路探究に向けた“次の行動”を具体的にイメージし、実際に取り組み始める準備ができたかを測定。</p> <p>(設問例)</p> <p>①興味を持った学問分野について、調べるための具体的な方法（サイト、資料、オープンキャンパス等）を把握できた。</p> <p>②今後、特定の学部・職業について自分で情報収集を進めるための“最初の一步”を踏み出せそうだと感じた。</p> <p>③企業の職種や業界について、次にどのような情報を集めればよいかイメージできた。</p>
プロジェクトチーム	神戸学院大学（リーダー）、神戸常盤大学、関西国際大学

7. KOBE 学生政策提案チャレンジプロジェクト	
概要	<p>大学で学ぶ学生たちは、地域課題に直接触れたり、行政の現場で政策形成のプロセスを体験したりする機会が限られている。本プロジェクトでは、神戸市中央区をはじめとする地域社会のフィールドを対象に、大学の枠を超えて、行政や地域産業の現場から学びを得ながら、提示された地域課題に対し、若者らしい視点から活性化のアイデアを導出する実践的な学修機会を提供する。学生が地域社会の仕組みや行政の役割を理解し、課題解決に主体的に取り組む意識を醸成することで、地域への関心を高め、将来的な「人材育成・定着」につなげることを目的とする。</p>
2026 年度 実施内容	<p>行政現場の課題をテーマに、地域課題解決型フィールドワークを年間3回実施（各回30名程度）。学生が地域の実情を理解し、地域課題解決のアプローチを実践的に学ぶ4段階のプログラムで構成する。</p> <p>1. 地域課題の学習 行政担当者や地域関係者から、課題の背景・現状・地域特性について説明を受け、学生が多角的に理解を深める。 課題の構造や論点を整理し、現場視察に向けた視点を養う。</p> <p>2. 現場視察 地域産業の現場、地域活動拠点、行政施設などを訪問し、実態把握やヒアリングを実施。 机上では得られない「現場のリアリティ」を体感し、課題の本質を捉える。</p> <p>3. 政策形成ワーク 行政担当者や地域関係者との対話を通じて、課題の構造整理や解決方向を議論する。学生同士の協働ワークにより、多様な視点を踏まえた政策アイデアを創出する。</p> <p>4. 学修成果の発表 グループごとに学生視点の柔軟な発想による解決アイデアや提案をまとめ、行政担当者から講評を受ける。提案内容は、行政実務や地域産業の視点からフィードバックを受け、学生の学びを深化させる。</p> <p>この一連のプロセスを通じて、学生が地域課題に主体的に向き合い、政策形成力・協働スキル・地域理解を実践的に身につけるとともに、地域社会への関心を高め、将来的な地域定着につながる人材育成モデルを構築する。</p>
2026 年度 KPI	アウトプット
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実施回数 3回</li> <li>・参加学生 30人×3回</li> <li>・学生の事前研修参加率 100%</li> </ul>
	アウトカム

	<ul style="list-style-type: none"><li>・学生による参加満足度 肯定率 80%以上</li><li>・フィールド受け入れ先満足度 肯定評価 80%以上</li></ul>
プロジェクトチーム	兵庫県立大学（リーダー）、神戸大学、関西国際大学

8. 神戸外国人高度専門人材育成プロジェクト	
概要	<p>市内の介護福祉施設等における深刻な人材不足に対応するため、本プロジェクトでは、海外の看護系・医療系大学、専門学校と連携し、神戸での就業意欲を持つ外国人学生を参画大学（神戸国際大学国際別科）で受け入れ、体系的な育成と地元定着を図ってきた。日本語教育、介護実習、生活支援に加え、在留資格「特定技能1号」の取得支援を行い、市内介護施設での就労につなげる仕組みを構築している。就労後の定着支援としては、「神戸国際高度人材サポートセンター」（社会福祉法人報恩会）を設置し、生活相談、地域社会との交流促進、介護福祉士資格取得に向けた学習支援など、長期的なキャリア形成を見据えた伴走支援を実施している。これらの取組みにより、専門性を持つ外国人材が神戸の地域社会の一員として安心して働き続けられる環境づくりを進めてきた。2024年度から2026年度までは神戸市による財政支援のもと事業を展開しており、2026年度は自走化に向けた最終年度となる。</p> <p>これまでの成果として、2024年度は32名（1期生8名、2期生24名）が就労し、2025年度は3期生27名が就労、4期生22名が特定技能1号（介護）に合格するなど、着実に成果を積み上げている。また、海外協定機関は7か国12機関と連携を確立し（目標：4か国6機関）、受入施設は28施設に拡大した。さらに、業界団体にもプロジェクトの意義等を理解していただいた結果、2024年度に神戸老人福祉施設連盟、2025年度に神戸市介護老人保健施設協会と神戸市シルバーサービス事業者連絡会の計3団体がプラットフォームに団体会員として参画し、各施設への情報提供など面で連携を進めている。また、介護分野以外への横展開を見据え、2024年度には産官学連携による研究ワーキンググループも発足している。</p> <p>2026年度は、自走化に向けた最終年度として、これまでの成果を踏まえつつ、「本プロジェクトの関係機関（神戸国際大学、社会福祉法人報恩会等）の役割分担を整理し、継続的に運営できる協働スキームの確立」「受入施設の拡大と、費用負担の在り方を含む持続可能な財源モデルの検討」「海外協定の教育機関との連携強化と、安定的な人材供給ルートの確立」などの視点を踏まえ、専門性のある外国人材が神戸で学び、働き、地域社会の一員として長期的に活躍できる仕組みの確立に向け、持続可能な運営体制の構築を検討していく。</p>
2026年度 実施内容	<p>2025年度は海外協定機関の確保や外国人材の受入において概ね目標を達成し、事業は順調に進捗した。2026年度は、自走化に向けた最終年度として、これまでの成果を確実に積み上げながら、専門性と意欲のある外国人材の安定的確保と受入事業所のさらなる拡大を目指し、以下の取組みを進める。</p> <p>1. 優秀な人材確保に向けた連携教育機関の多様化・拡充（継続・強化） 海外協定機関との連携をさらに広げ、志願者数の増加と人材の質の向上を</p>

	<p>図る。特に、キルギスをはじめとする新規教育機関へのアプローチ強化を検討し、安定的な人材供給ルートを確立する。</p> <p>2. 訪日前日本語教育の充実と受入環境整備による合格率向上(継続・強化)      特定技能試験の合格率向上に向け、訪日前日本語教育の質を高めるとともに、住居確保や生活支援など来日後の生活基盤を整える支援を強化する。</p> <p>3. 受入施設(就労施設)の拡大(継続・強化)      受入施設に対し、外国人材受入のメリットや、他制度に対する本プロジェクトの優位性を明確に示し、参画施設の拡大を図る。施設側の理解促進に向けた説明会や個別相談も充実させる。</p> <p>4. マッチング業務の効率化と質の向上(継続・改善)      マッチングプロセスを可視化し、各段階の担当者・責任・期限を明確化することで、業務の効率化と質の向上を図る。受入施設と学生双方のニーズに合致したマッチングを実現する。</p> <p>5. 受入施設へのフォローアップ強化(継続・拡充)      外国人雇用に関する最新情報やノウハウを提供し、受入施設が安心して外国人材を活用できるよう支援する。課題共有の場や研修機会などを設け、施設間のネットワーク形成も促進する。</p> <p>6. 就労後の外国人材へのキャリア支援・相談体制の強化(継続・拡充)      「神戸国際高度人材サポートセンター」を中心に、生活相談、キャリア形成支援、介護福祉士資格取得に向けた学習支援、地域社会との交流促進など、長期的な定着に向けた伴走支援を強化する。</p> <p>7. 海外教育機関における日本語教育体制・人材選考方法のスクリーニング(継続・強化)      海外協定機関の教育体制や外国人材の選考方法を精査し、質の高い人材を安定的に確保するためのスクリーニングを実施する。教育内容の標準化や改善提案も行い、連携の質を高める。</p> <p>8. 自走化に向けた事業体制の検討      2026年度を自走化に向けた最終年度と位置づけ、以下の観点から持続可能な運営体制を構築する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 受入・教育・就労・定着支援の一体的モデルの標準化</li> <li>● 大学・企業・行政等における役割分担と協働スキームの確立</li> <li>● 受入施設の費用負担を含む財源モデルの検討</li> <li>● 事業運営のマニュアル化と体制整備</li> </ul> <p>これにより、2027年度以降の安定的な事業継続を可能とする自走型モデルを確立する。</p>
<p>2026年度 K P I</p>	<p>・受け入れ人数: 90名以上          ・特定技能1号(介護)取得: 95%</p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内就職: 95%</li> <li>・海外協定機関数: 5 개국 8 機関 (現状 7 개국 12 機関) を維持しつつ、新規国の追加 (キルギス等)</li> <li>・受け入れ施設数 (企業会員数) : 70 施設以上※留学生が希望する就労先を選択できる環境を整備</li> </ul>
プロジェクトチーム	神戸国際大学 (リーダー)、神戸松蔭大学、関西国際大学、JICA 関西、社会福祉法人報恩会、神戸市

9. リカレント教育プロジェクト	
概要	<p>文部科学省の「地域ニーズに応える産学官連携を通じたリカレント教育プラットフォーム構築支援事業」に2023年度、2024年度、2025年度と3か年連続で採択を受けている。2026年度に向けても、2025年度補正予算「リ・スキリング・エコシステム構築事業」の継続採択を目指して補助金申請を行う。採択結果が決定次第、その採択内容にあわせて、事業計画を改めて策定する予定をしている。</p> <p>※下記の実施内容・KPI等は、採択された場合に向けて現時点で検討している内容として記載する。</p>
2026年度 実施内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育プログラムの開発と実施 <ul style="list-style-type: none"> <li>・企業の成長に直結する実践的な教育プログラムを産学協働体制で開発</li> <li>・産業界や企業の高度かつ具体的なニーズに的確に対応</li> </ul> </li> <li>2. 成果の普及啓発 <p>本事業の成果をウェブサイト等で事業成果を発信するだけでなく、企業参加者からのフィードバック収集や成功事例の共有を行い、継続的なプログラム改善とさらなる参加促進を目指す。</p> </li> <li>3. 持続可能な運営に向けた体制の強化 <ul style="list-style-type: none"> <li>・常勤の専門担当職員の配置</li> <li>・リカレント教育の継続的な実施に必要な専門性を持つスタッフの確保</li> <li>・産業界の知見とニーズを反映するコーディネーターの配置</li> <li>・長期的かつ安定的な事業運営モデルの確立</li> <li>・財政的自立性の検討</li> </ul> </li> <li>4. 修了者支援 <ul style="list-style-type: none"> <li>・プログラム修了者へのデジタルバッジ発行 など</li> </ul> </li> <li>5. リカレント教育事業実施委員会 <p>3か月に1回程度の頻度で開催。地域ニーズの分析、プログラム内容の検討、評価方法の策定等を行い、教員のインセンティブ措置についても検討する。</p> </li> </ol>
2026年度 KPI	アウトプット
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プログラム数 15以上</li> <li>・参加者数 400名以上</li> </ul> <p>内訳) 経営者向け 100名以上 企業社員向け 300名以上</p>
	アウトカム
	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育プログラムの整備と産学官連携の強化 <ul style="list-style-type: none"> <li>・産業界のニーズを反映した実践的な教育プログラムの開発</li> <li>・大学と企業の連携による教育の質的向上</li> </ul> </li> <li>2. 社会人の学び直しの促進</li> </ol>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ リカレント教育の重要性の社会的認知度向上</li> <li>・ 個人のスキル向上と職務能力の開発</li> </ul> <p>3. 地域社会への貢献</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域課題の解決に向けた教育プログラムの実施</li> <li>・ 地域社会の持続的な発展への寄与</li> </ul>
プロジェクトチーム	<p>神戸市（リーダー）、神戸大学、神戸学院大学、甲南大学、兵庫県立大学、神戸市外国語大学、関西国際大学、神戸市看護大学、神戸商工会議所、兵庫県中小企業家同友会、株式会社 神戸新聞社、西日本電信電話 株式会社、三井住友信託銀行 株式会社、株式会社 みなと銀行、兵庫県</p>

10. 神戸の未来に向けた大学創生プロジェクト	
概要	<p>神戸エリアでは、国公立大学のみならず、独自の建学の精神と教育理念に基づいて高等教育を提供し、社会に貢献してきた私立大学も多く立地し、地域社会をけん引する多くの人材を育成し、輩出してきた。</p> <p>地域社会の持続可能な発展に向けて、域内の高等教育機関である大学が有する教育・研究・施設等の資源を活用し、地域貢献をさらに促進していくことが不可欠である。とりわけ、急激な少子化の進行、技術革新の加速、グローバル化の進展など、高等教育を取り巻く環境が大きく変化する中で、各大学には時代や地域社会のニーズを踏まえた魅力ある大学づくりが求められている。とりわけ、独自性と多様性を持った教育、研究を展開する各大学が地域社会にその成果を還元し、貢献すべきとの共通認識のもと、時代変化と地域社会のニーズを踏まえた魅力ある大学づくりに向け、地元産業界との対話や交流や大学教職員の意識啓発等に取り組んでいく。</p>
2026 年度 実施内容	<p>1. 地域経済界を中心に企業と大学等との対話・交流  (例) 圏域内の地域経済の展望を踏まえた人材ニーズをテーマに、有識者による講演も交えながら、経済界等と参画大学等が様々な形で対話・交流する取組みを実施する。</p> <p>2. 産官学連携・大学間連携による取組み  (例) 企業等からの提案による参画大学等との連携・共創の取組み（例えば、企業発案テーマに基づく参画大学ゼミによる PBL 型授業など）を進めるとともに、複数大学の職員がアラカルトで受講可能な形でのテーマ別研修を実施する。併せて、急激な少子化の進行等を踏まえ、国等の将来推計や 2040 年を見据えた高等教育へのアクセス確保に関する検討など政策動向等について理解を深め、参画大学間で課題認識を共有する取組みを行う。</p>
2026 年度 KPI	アウトプット
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業との連携事業を 3 つ以上</li> <li>・大学間連携事業を 3 つ以上</li> </ul>
2026 年度 KPI	アウトカム
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・産官学連携の促進</li> <li>・大学の発展を担う大学職員人材の発掘、育成</li> </ul>
プロジェクトチーム	神戸市（リーダー）、神戸学院大学、甲南大学、神戸常盤大学、関西国際大学

# ⑥収支予算

## 2026年度 予算

(単位：千円)

区分	当年度予算	前年度予算	前年計画差	備考
収入				
会費収入 (神戸市)	37,500	37,500	0	
会費収入 (大学)	42,390	36,600	5,790	
会費収入 (企業等)	4,900	4,450	450	
事業収入	52,550	109,708	△57,158	
雑収入	0	0	0	
戻入金				
当期収入計	137,340	188,258	△50,918 (a)	
前期繰越金	65,436	65,418	18 (b)	
計	202,776	253,676		

支出	事業費			事業収入 (再掲)			PF財産			前年計画差	備考
	事業費	事業収入 (再掲)	PF財産	事業費	事業収入 (再掲)	PF財産	事業費	事業収入 (再掲)	PF財産		
プロジェクト											
KOBEアカデミックトークプロジェクト	2,500	0	2,500	2,500	0	2,500				0	
学生の地元企業の理解促進、認知度向上、市内定着に向けた地域定着人材育成	11,000	0	11,000	24,500	13,500	11,000				△13,500	2025年度から大学カリキュラムとインターンシップ・就職活動との接続と留学生就業体験を統合
神戸医療DX人材育成プロジェクト	2,000	0	2,000	0	0	0				2,000	
企業、行政、大学、住民が共につくる地域防災	1,500	150	1,350	1,300	200	1,100				200	
KOBE SDGs CHALLENGE PROJECT	2,850	125	2,725	3,125	125	3,000				△275	
高校生のための進路探求プロジェクト	2,800	0	2,800	1,600	0	1,600				1,200	
KOBE学生 政策提案チャレンジプロジェクト	2,500	0	2,500	0	0	0				2,500	
神戸外国人高度専門人材育成プロジェクト	50,000	50,000	0	51,000	50,000	1,000				△1,000	
リカレント教育プロジェクト	0	0	0	39,500	39,500	0				△39,500	
神戸の未来に向けた大学創生プロジェクト	1,457	1,457	0	2,700	2,700	0				△1,243	
プロジェクト雑費(共通)	125	0	125	850	0	850				△725	
2025年度終了プロジェクト											
大学発イノベーションファンド神戸	0	0	0	1,000	0	1,000				△1,000	
<small>※本学が主催による神戸市立総合研究センターによる共同研究推進、神戸大学プロジェクト-地域連携推進(共同研究)・人材育成推進(共同研究)</small>	0	0	0	2,950	0	2,950				△2,950	
<b>事業予算計</b>	<b>76,732</b>	<b>51,732</b>	<b>25,000</b>	<b>131,025</b>	<b>106,025</b>	<b>25,000</b>				<b>△54,293</b>	
法人運営費	25,064	0	25,064	20,493	0	15,854				4,571	
拠点管理運営費	31,647	0	31,647	32,898	0	32,192				△1,251	
管理・共通運営費等計	56,711	0	56,711	53,391	0	48,046				3,320	
受託事業	458	818	-360	424	3,683	-3,259				34	
予備費	3,400	0	3,400	3,400	0	3,400				0	
その他計	3,858	818	3,040	3,824	3,683	141				34	
当期支出計	137,301	52,550	84,751	188,240		73,187				△50,939 (c)	
当期収支差額	39		39	18		5,363				21 (a) - (c)	
次期繰越金	65,475		65,475	65,436		70,781				39 (a) + (b) - (c)	
計	202,776		150,226	253,676		143,968					